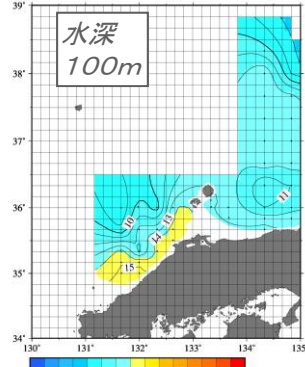
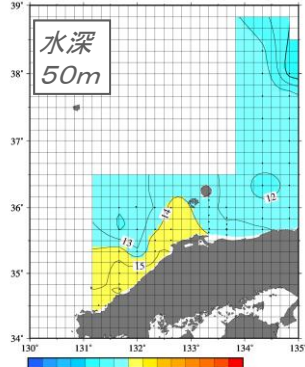


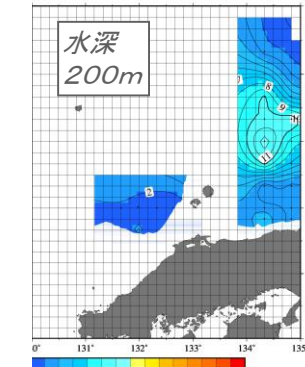
鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域の水温は13～14°Cで、平年より1°C高い値となっています。



水温は13～14°Cを示し、平年より1°C高い値となっています。



水温は13～14°Cを示し、平年より1°C高い値となっています。



隠岐諸島北東緯36°40'以北に暖水域(7～12°C)があります。

水産試験場

沖合漁業における漁況の見通し

新型コロナウイルスの影響により、令和元年度第2回回港地区漁況連絡会議は中止させていただきましたが、報告予定としていましたアジ・サバ・イワシ等の浮魚類、スワイガニ等を含む底魚類の今後の漁模様についてお知らせします。

浮魚類

魚種	予報期間	コメント
スルメイカ	4月～6月	昨秋生まれのスルメイカ幼生は低水準だった前年並みに少なく、水揚量は前年、平年を下回る見込み。
マアジ	4月～6月	前年並み・平年を下回る(2018・19年級群の加入が少ない)
マサバ	4月～6月	前年並み・平年を下回る(北に群れが留まっている可能性あり)
マイワシ	4月～6月	前年・平年を上回る(資源は増加傾向にあり、索餌北上回遊に期待)
クロマグロ	6月～7月	漁場形成される海域によるが、加入水準が高い3歳魚(30kg前後)をはじめ、加入水準が比較的に良好な4歳魚(60kg前後)、5歳魚(80kg前後)を主体に前年並みの漁獲が見込める。

底魚類

魚種	予報期間等	コメント
松葉がに	2019年結果	前年を上回った(資源状態が良かったとともに、前漁期に比べて資源管理の強化により、今漁期はTAC(漁獲可能量)の消化が安定し、1～2月も順調に漁獲されたことが影響)
親がに	2019年結果	前年を下回った(資源管理の強化及び資源状態の悪化が影響)
若松葉	2019年結果	前年を上回った(前漁期は、松葉がに、親がにの豊漁で規制当TACの消化が早く、若松葉を漁獲できなかったのに対して、今漁期は、資源管理の強化により、TACの消化が安定し、若松葉を漁獲したことが影響)
ズワイガニ合計	2020年予測	前年を下回る(来漁期からTACが更に削減される見込み)
ハタハタ	2020年予測	前年並～前年を上回る
アカガレイ	2020年予測	前年並～前年を上回る(ホタルイカ漁模様次第)
ソウハチ	2020年予測	前年並
マダラ	2020年予測	前年を上回る
ベニズワイ	2020年予測	資源水準は低位、動向は減少。I・Q(個別漁獲割当)の範囲内での操業だが、小銘柄が主体で低迷した状況が続く。

令和2年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

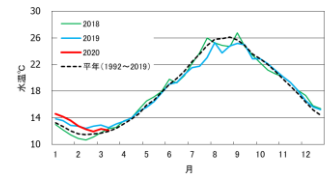


鳥取沿岸の水温

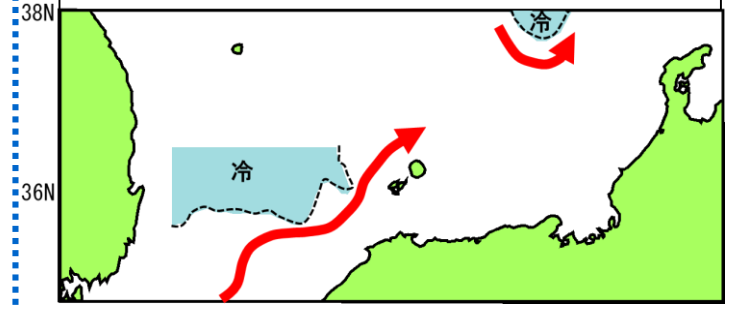
鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

3月中旬 12.1°C

平年より約 0.2°C高め



3月上旬の水塊配置と対馬暖流



鳥根沖冷水	鳥根県沖 北緯35°40'以北(10°C以下)に認められます。
山陰・若狭沖冷水	兵庫県沖 北緯37°50'以北(10°C以下)に認められます。
対馬暖流主流の流路	鳥根沖冷水に沿って北東に向かい、隠岐諸島北方を通る流れが認められます。また、山陰・若狭沖冷水に沿って北東に向かう流れが認められます。

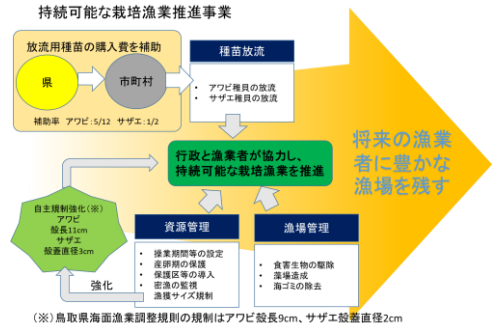
*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています、是非ご利用ください。

★水産課からのお知らせ★

アワビ・サザエ栽培漁業の新支援を開始

令和2年度から、地域の財産であるアワビ・サザエの資源を将来の漁業者に残すために資源管理等に積極的に取り組む漁業協同組合に対し、放流用種苗の購入費用を市町村と共に支援する事業を開始します。(これまでアワビ・サザエの放流支援を行ってきた栽培漁業ビジネスプラン推進事業は令和元年度で終了しました)

- 事業名 : 持続可能な栽培漁業推進事業
 補助対象 : 漁業協同組合
 補助率 : アワビ 5/12 (県1/4,市町村1/6以上)
 : サザエ 1/2 (県1/3,市町村1/6以上)
 補助要件 : 持続可能な栽培漁業推進計画を制定し(水産振興局長の認定が必要)、計画に基づいた活動を行うこと。



(※)鳥取県海面漁業調整規則の規制はアワビ殻長9cm、サザエ殻直径2cm

栽培漁業センター

2019年の沿岸漁業の漁獲量は統計史上過去最低

2019年の沿岸漁業(養殖をのぞき、19tイカ釣含む)の漁獲量(金額)は、3,994トン(28億円)と現在の漁獲統計システムを導入した1992年以降では過去最低の数値となりました。漁獲量減少要因の一つにはイカ類の不漁が挙げられます。スルメイカ、白いか、ヤリイカ、あかいかの2014-18年の5年平均の総漁獲量に対し、2019年は44%しか水揚げがありませんでした。

表 近年の鳥取県における沿岸漁獲量の推移

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	5年平均
沿岸合計(19tイカ釣含む)	6,061	6,390	5,089	4,753	4,459	3,994	5,300
上位10種							
スルメイカ	2,394	1,984	1,539	1,268	973	722	1,632
ハマチ	486	1,151	593	591	606	478	686
サワラ	654	511	434	480	907	912	597
白いか	257	475	307	281	358	168	336
あじ類	284	327	337	242	246	224	287
10種	1,811	319	292	265	62	76	224
イワガキ	164	183	167	164	134	135	163
とびうお類	149	153	124	129	131	114	137
ツツノハズリ	158	171	118	100	58	46	121
サザエ	81	125	148	122	115	122	118
ヒラメ	44	51	50	33	37	37	43
栽培対象	12	11	11	10	10	11	11
アワビ	9	12	10	10	13	11	11
増加	21	16	24	12	34	75	21
減少	71	4	126	69	111	22	76

数少ない明るい話題としては、前年、美保湾で越冬行動の見られたサワラが過去最高の漁獲量・金額(7.6億円)を記録したこと、資源量が近年増加しているヒラマサの漁獲が目立つ点が挙げられます。ただ、この冬は美保湾で越冬するサワラが少なく、スルメイカ資源も依然として回復の見込みがない中、2020年の沿岸漁獲量はさらに減少しないかと危惧しています。

潮に夢を

共和水産株式会社

代表取締役 岩田 祐二

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530